

特別支援学校における知的障害のある生徒への性に関する指導

(保健体育講座) 糸岡 夕里

(教育実践高度化専攻院教育実践開発コース) 岡田 優佳

Sexuality education for student with intellectual disabilities in special needs schools

Yuri ITOOKA and Yuka OKADA

(2023年9月1日受付, 2023年11月28日受理)

キーワード: 性に関する指導 (sexuality education), 知的障害のある生徒 (student with intellectual disabilities)

1. はじめに

令和2年3月, 法務省により性犯罪の実態に関する調査研究等の結果が取りまとめられた(性犯罪に関する施策検討に向けた実態調査ワーキンググループ, 2020)。これにより, 性犯罪被害の実状が明らかになるとともに, 子供に対する教育や教育現場での対処の在り方に関する事項などが指摘された。

性犯罪・性暴力の根絶へ向けて, 誰もが, 性犯罪・性暴力の加害者にも, 被害者にも, 傍観者にもならないよう, 社会全体でこの問題に取り組む必要がある。被害者支援の充実, 加害者対策, 教育・啓発の強化等の実効性ある取組を速やかに進めていくことが求められており, その第一歩として, 令和2年6月「性犯罪・性暴力対策の強化の方針」(性犯罪・性暴力対策強化のためお関係府省会議, 2020)が示された。ここでは, 令和2年から4年までの3年間を「集中強化期間」として, 政策・施策の検討や実施の具体的な方針や時期が示された。

これにより, 具体的な取組の推進や環境整備, 社会全体への啓発等が着実に実施された一方

で, 依然として性犯罪・性暴力は深刻な状況であり, 対策の更なる強化が必要であるとして「性犯罪・性暴力対策の更なる強化の方針」(性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省会議, 2023)が示され, 令和5年から7年までの3年間を「更なる集中強化期間」と位置づけられた。また同年7月には, 「こども・若者の性被害防止のための緊急対策パッケージ」(性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省会議・こどもの性的搾取等に係る対策に関する関係府省連絡会議合同会議, 2023)が示された。

これらの背景には, 弱い立場に置かれた子供と若者が, 性犯罪・性暴力被害に遭う事案が後を絶たないことや, 子供と若者は, 被害に遭っても, それを性被害であると認識できない, 声を上げにくく適切な支援を受けることが難しいなどの課題がある。すべての子供と若者が安心して過ごせる社会の実現のためには, 対策の一層の強化が喫緊の課題であると指摘されている(性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省会議・こどもの性的搾取等に係る対策に関する関係府省連絡会議合同会議, 2023)。

なかでも、障害者は障害のない人に比べて性被害を受けやすい傾向にある。障害のない男女に比べて障害のある男女では、性暴力の割合が顕著に高くなっているという報告もある(岩田, 2017)。特に、障害のある女性では、障害のない女性のほぼ2~3倍にあたる数の人たちが性暴力を受けていたという調査結果も出ている。障害の特性により性暴力にあう確率が高いことや社会的な孤立傾向等の理由から、障害者は性暴力被害から逃れることや被害後の支援を受けることが困難だともされている。強く断ることができない、危険を予測できない、悪いことなのか判断できない、何より、周囲の人にどう相談していいのかわからず被害が見過ごされてしまうことが多くあるという問題も挙げられる。

また、性被害者のなかで障害者が占める割合が高いということだけでなく、障害の特性上、判断がつきにくい等のことから、無意識のうちに自身が性被害の加害者になってしまう可能性も高くなる。このことから、特別支援学校における障害のある子供たちへの性に関する指導の重要性は極めて高いといえる。被害者になることを防ぐだけでなく、加害者になることも防ぐことが重要となる。

「性犯罪・性暴力対策の更なる強化の方針」

(性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省会議, 2023)では、子供を性暴力の当事者としないうための生命(いのち)の安全教育について、今後より一層推進するとともに、性暴力の加害者、被害者、傍観者とならないよう、学校教育がより大きな役割を果たしていくことが必要であることが指摘された。

特別支援学校における性教育の現状としては、次のような報告がある。特別支援学校の教員60名を対象に性教育に対するイメージの記述を分析した結果、多くの教員が性教育に対して自分とは無関係とし、苦手意識などがあるとした(原, 2010)。また、特別支援学校における性教育の実施状況およびニーズについて、先行

研究を整理した結果、性に関する指導について、必要だと思われる内容が実践できていないことが明らかとなった(光武, 2014)。さらには、特別支援学校における発達段階に応じた性教育の現状と課題について、教員へのインタビュー調査を対象に分析した結果、教員間の指導方法の統一や共有の重要性が示唆された(村川・牛山, 2021)。このように、特別支援学校における性に関する指導は、社会的に期待されている一方で、学校現場では積極的に実践されているとは言い難い現状が明らかとなった。

そこで本研究では、特別支援学校の中でも知的障害のある生徒を対象として、身体の成長と心の成長を関連させながら理解を深めることができる授業を提案及び実践し、それらを通して、性に関する指導のあり方について検討することを目的とした。

2. 方法

(1) 対象および時期

対象は、愛媛大学教育学部附属特別支援学校中学部の生徒6名とし、20XX年12月に授業を実践した。授業者は、当時、愛媛大学教育学部4回生であった岡田優佳(主に授業を進行)と、中学部担任である教諭A, B(主にサポート)であった。

研究の特性上、対象生徒の6名は、中学部に所属する発話の可能な生徒とした。

なお、岡田は授業実践以外でも教育実習等において対象生徒らと交流があり、授業実践当時、既に対象生徒らに認知されている存在であった。

(2) 授業計画

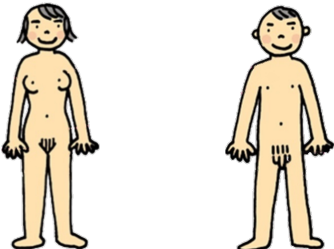
授業を計画するにあたり、20XX年5月より、月に1回程度、計6回の事前打ち合わせ(授業者、教諭A, B, 体育科教育を専門とする大学教員1名)を実施し、対象生徒の実態や学習状況等をふまえ、授業内容の検討を行った。

(3) 授業内容

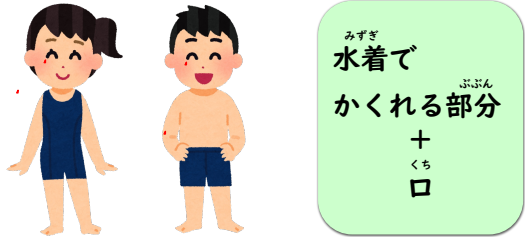
授業内容としては、これまでの学習において対象生徒は、ルールやマナーとして他者との適切な距離について指導がされていたことから、恋愛的感情や性に関する衝動をふまえ、他者との適切な距離について理解できることを授業のねらいとした。具体的には、①プライベートゾーンの確認（既習内容）、②AさんがBさんに抱きつく場面の二人の気持ちを考える、③AさんがBさんに体を見せてという場面の二人の気持ちを考えるという3つの活動であった。主な活動場面で使用したスライドを図1-4に示し、学習指導案については図5に示した。

また、主な工夫点として、発問に対し考えることが難しいことや時間を要してしまうことを考慮し、選択肢を付箋紙として準備した。中には、選択することの方が難しい生徒もいたため、自身の考えでも構わないという指導をすることとした。

□ からだ だいじ ぶぶん
体の大事な部分ってどこかな？



□ プライベートゾーン



みずぎ
水着で
ぶぶん
かくれる部分
十
くち
口

□ プライベートゾーン

- ・言わない
- ・聞かない
- ・見ない
- ・見せない
- ・さわらない
- ・さわらせない

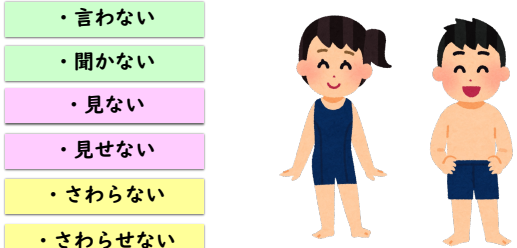
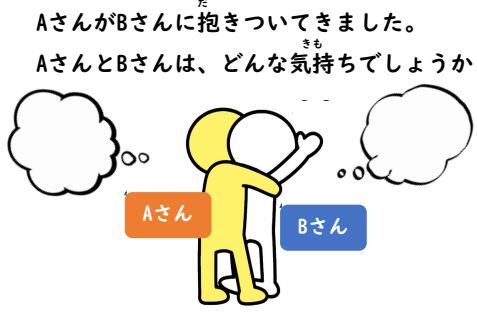



図1 授業の活動場面1（発問1）で使用したスライド

□ AさんがBさんに抱きついてきました。
AさんとBさんは、どんな気持ちでしょうか？

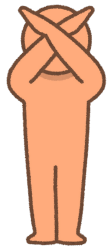


□



□

あいて
相手がいやがるタッチはダメ



□

されてイヤなことはイヤだと言おう



図2 授業の活動場面2（発問2）で使用したスライド

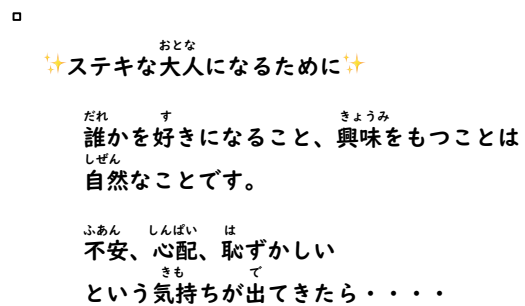
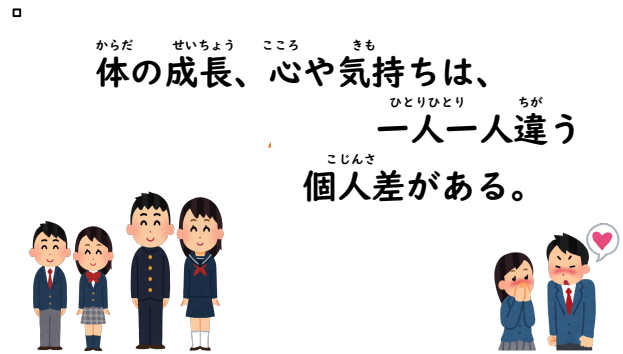
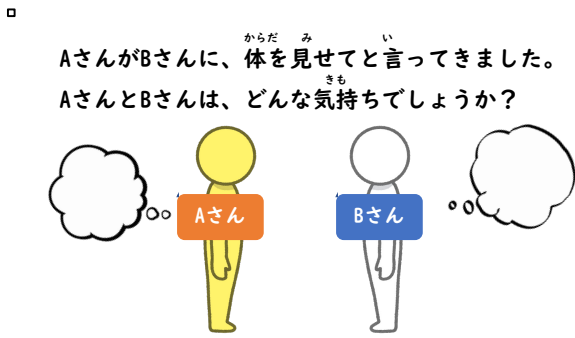


図3 授業の活動場面2（発問3）で使用したスライド

図4 授業の活動場面3で使用したスライド

中学部 保健体育科 学習指導案

指導者 岡田 優佳
於/中学部3年教室

1 日時 令和4年12月13日(火) 11:00-11:30

2 本時の指導 (1 / 1)

(1) 目標

体と心の成長を知ろう。

(2) 準備

パワーポイント資料、配布用プリント、付箋、掲示資料

(3) 展開

学習活動	予想される子どもの意識の流れ	○指導上の留意点●評価
1 体の大切な部分について振り返る。	<p>体の大切なところはどこだったかな。</p> <p>・たくさんあると思う。 ・水着で隠れるところだったと思うよ。 ・覚えてないな。</p>	<p>○ 資料の一部を昨年度と同じ内容にすることで、振り返りやすくする。</p> <p>○ 体のイラストの大切だと思うところに丸を付けることで、個人でも考えられる時間を設ける。</p>
2 場面ごとに気持ちと行動を考える。	<p>AさんはBさんにギューッとしたくて、Bさんは近すぎるのはイヤというとき、二人はどんな気持ちだろう。</p> <p>・勝手に触られるといやだ。 ・仲良くなりたい。</p> <p>AさんはBさんの体が気になっていて、Bさんは体を見られるのはイヤというとき、二人はどんな気持ちだろう。</p> <p>・知りたい。 ・びっくりする。 ・見せてはダメなところがある。</p>	<p>○ 二つの場面を扱うことで、具体的に捉えやすくする。</p> <p>○ 気持ちを考える際、選択肢を用意することで、考えやすくする。</p> <p>○ 選択が苦手な生徒は、プリントに自身で書くことで考えやすくする。</p>
3 本時のまとめを行う。	<p>ステキな大人になるために大切なことって何だろう。</p> <p>・相手の気持ちを考えることが大切なんだな。 ・何かあったとき、いやだと言えるかな。 ・わからないことがあったら相談してみよう。</p>	<p>● 体と心の成長について知ることができたか。(ワークシート・発言・様態)</p>

図5 学習指導案

(4) 授業評価

授業実践後に教諭 A, B に対し, Google Forms を使用し, アンケート調査 (図 6) を実施した。また, 対象生徒に対し, 授業の理解度を確認するためのアンケート調査 (図 7) を実施した。教諭へのアンケート調査は記名を求め, 生徒へのアンケート調査は, 内容の特性上, 無記名とした。

(5) 倫理的配慮

研究を進めるにあたり, 関係者に対し資料を提示するとともに研究の趣旨について説明し, 研究協力の同意を得た。また, 研究への協力は任意であり, それによる不利益は生じないこと, 加えて, 調査によって知り得たデータの管理については厳重に行い, 個人が特定されないように扱うこと, 撮影した授業動画については, 本研究での使用のみに限定し, 不特定多数が視聴できるようにしないこと, 結果については, 研究会等において公表することを説明した。

-
1. 授業で扱った3つの内容は生徒たちの実態に合っていたか。
 2. 授業で扱った3つの内容の時間配分は適切であったか。
 3. 授発表時の応答や声のかけ方等は適切であったか。
-

図 6 教諭へのアンケート調査項目

-
1. 体の大切な部分プライベートゾーンを知ることができましたか。
 2. 体の大切な部分の話を聞いての感想を聞かせてください。
 3. 心の成長について知ることができましたか。
 4. 心の成長の話を聞いての感想を聞かせてください。
 5. 体の成長、心や気持ちは一人一人違って個人差があることを知ることができましたか。
 6. 不安なこと、心配なこと、恥ずかしいという気持ちが出た時に、あなたは誰に相談しますか。
 7. 性に関する授業を受けてみて、どんな気持ちになりましたか、なんでも書いてください。
-

図 7 生徒へのアンケート調査項目

3. 結果および考察

(1) 教諭へのアンケート調査

実施した授業の成果について検証するため, 授業実施後, TT (チーム・ティーチング) という役割で授業に参加した教諭 A (T2), B (T3) へアンケート調査を行った。「 」内に示した内容は, 実際に回答された内容であった。

授業内容については, 教諭 A, B ともに実態に合っていたという意見が得られた。その上で, 教諭 A からは「個別の支援や指導をどう行っていくのかということにおいても考えていく必要がある」ということが示唆された。発問について, 付箋紙を用いて選択するようにしたことに関して, 効果的であったという意見が教諭 A, B ともに得られた。一方, 体の中で大事だと思うところに丸をするという活動に関して, 教諭 B からは「シールを貼るとような活動にするとより伝わりやすくなるかもしれない」という意見が挙げられた。これは, 体の全体に丸をつけている生徒がいたことから, シールといった確実に部分を指し示せるような支援具を考慮しておくことより発問の意図を正確に伝えることができたことが推察された。

活動時間については, 想定していたよりも長く時間をとったが, 生徒たちがじっくり考えることができたということから, 適切であるという意見が教諭 A, B ともに得られた。その中で, 教諭 B からは「早く終わった生徒がいたため, 活動に係る個人差を考慮し, 次に何か個別にできる内容を設定する必要がある」ということが課題として挙げられた。

授業者の働きかけについても, 適切であるという意見が教諭 A, B ともに得られた。しかしながら教諭 B からは, 「TT での授業をより効果的に進めていくためには, 事前の打ち合わせの際に, もう少し詳しく授業の活動等におけるイメージや進め方を共有する必要があった」とことが指摘された。授業者自身は授業について明確な構想が頭の中にあり, 随時対応することができるが, 明確に共有していないと, T2 や T3 は

どう動いていいか分からないという場合が生じる。TT であることをより効果的に活用するためにも、詳しい共有や打ち合わせの必要性が指摘された。

(2) 生徒へのアンケート調査

実施した授業に対する生徒の理解度を検証するため、対象生徒へのアンケート調査を実施した。障害の特性上、授業で扱った内容をどこまで理解しているのかということをも文面から完全に把握することは難しいため、生徒たちの気持ち、またはどういう事柄や言葉が生徒たちの記憶に最も残っているのかということをも明らかにすることとした。「 」内に示した内容は、実際に回答された内容であった。

本授業のねらいであった体の大切な部分（質問 1）、心の成長（質問 3）、体と心の成長や気持ちには個人差がある（質問 5）ことについて知ることができましたかという 3つの質問では、6名中 5名が知ることができたと回答していた。いずれの質問に対しても、同様の 1名が空欄であったものの、その後の感想を聞かせて下さいという質問 2、4には、「プライベートゾーンを知ることができました（質問 2に対する回答）」「心の成長について知ることができました（質問 4に対する回答）」という具体的な記述がされていたことから、知ることができましたかという直接的な質問では回答が得られなかったが、当該生徒も体の大切な部分、心の成長について理解ができていたことがうかがえた。

また、得られた知識を活用していくために、不安なこと、心配なこと、恥ずかしいという気持ちが出た時に、あなたは誰に相談しますかという質問 6では、全生徒が相談する相手を回答することができていた。これが、今回の授業のみの成果であるとはいえないが、今後の成長を考えると、良い結果であることは間違いない。性に関することだと、スピーディーさが重要となってくる事柄も多々存在する。そのため、何

かあったときに誰かにすぐに相談できるというのは非常に大切なことである。

性に関する授業を受けてみて、どんな気持ちになりましたかという質問 7では、6名中 5名が楽しかったと回答するとともに「勉強になった」「よくわかった」と回答していた。1名のみが「少し恥ずかしかったです。でもこれはすてきな大人になるにとっても大切な事なのでしっかり聞けました」と回答していた。これより、座学の授業であっても、活動を多く取り入れたり、授業内でのやり取りの回数を多く設けるようにしたりした工夫が効果的だったことがうかがえた。同様に、集中力が途切れないような活動の組み方や思考の流れを設定することが大切であるということも重要となる。今回のような座学の場合は、特に効果的な活動の取り入れ方や生徒とのやり取りが必要不可欠となることが推察された。

さらには、体のこと（性のこと）を直接扱う場合、恥ずかしさを感じる生徒も一部いるということが挙げられる。匿名であるため、男女のどちらが恥ずかしさを感じていたのかは分からないが、障害の有無に関わらず、恥ずかしさを覚える生徒もいるということが確認できた。このことから、そういった生徒も学びやすい環境づくりや環境設定を行うことが重要であることが示唆された。

4. まとめ

本研究では、特別支援学校の中でも知的障害のある生徒を対象として、身体の成長と心の成長を関連させながら理解を深めることができる授業を提案及び実践し、それらを通して、性に関する指導のあり方について検討することを目的とした。

授業内容は、恋愛的感情や性に関する衝動をふまえ、他者との適切な距離について理解できることを授業のねらいとした。具体的には、①プライベートゾーンの確認（既習内容）、②Aさんが Bさんに抱きつく場面の二人の気持ち

を考える，③AさんがBさんに体を見せてという場面の二人の気持ちを考えるという3つの活動を展開した。

また，主な工夫点として，発問に対し考えることが難しいことや時間を要してしまうことを考慮し，選択肢を付箋紙として準備するとともに，選択することの方が難しい生徒もいたため，自身の考えでも構わないという指導をすることとした。

授業実践後，TTとして参加した教諭2名と対象生徒6名のアンケート調査の回答から，実態に合っていれば，行動と感情を結び付けて考えることは可能であるということが明らかとなった。このことから，本授業で扱った題材や教材は効果的であると考え。同時に，今後も実態や生活年齢に合わせて，指導をしていく必要性が示唆された。

また今後の課題としては，子どもたちの実態を踏まえた個別最適の支援や指導を充実させていく必要性が挙げられた。

文献

原恵美子（2010）知的障害児に対する特別支援学校における性教育実施の状況と，教諭と保護者の意識。山形保健医療研究 13：71-78。

岩田千亜紀（2017）海外における障害者への性暴力被害の状況【概要】。障害者へのDVなどの暴力についての国際的な動向と課題：文献レビュー。東洋大学社会学部紀要 55-1。pp.43-55。

<https://www.moj.go.jp/content/001310430.pdf>（2023/8/30）

光武智美（2014）特別支援学校における性教育の実施状況およびニーズについての文献的検討～全国を対象にした文献に焦点をあてて～。学校保健研究 56：367-375。

村川歩里・牛山道雄（2021）特別支援学校における発達段階に応じた性教育の現状と課題-非養護教諭と養護教諭のインタビュー

一調査を通して-。京都教育大学総合教育臨床センター特別支援教育臨床実践拠点年報。pp.32-40。

性犯罪に関する施策検討に向けた実態調査ワーキンググループ（2020）性犯罪に関する施策検討に向けた実態調査ワーキンググループ取りまとめ報告書。

<https://www.moj.go.jp/content/001318153.pdf>（2023/8/30）

性犯罪・性暴力対策強化のためお関係府省会議（2020）性犯罪・性暴力対策の強化の方針。

https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/seibouryoku/pdf/policy_02.pdf（2023/8/30）

性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省会議（2023）性犯罪・性暴力対策の更なる強化の方針。

https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/seibouryoku/pdf/kyouka_02.pdf（2023/8/30）

性犯罪・性暴力対策強化のための関係府省会議・こどもの性的搾取等に係る対策に関する関係府省連絡会議合同会議（2023）こども・若者の性被害防止のための緊急対策パッケージ。

https://www.gender.go.jp/policy/no_violence/seibouryoku/pdf/boushi_03.pdf（2023/8/30）

附記

本研究は，令和4年度教育学部研究助成（学部長裁量経費）教育学部GPの助成を受け実施した。

謝辞

本研究を実践するにあたり，お忙しい中，快くご協力いただいた愛媛大学教育学部附属特別支援学校の学校長および学級担任の先生方，生徒の皆様にご心より感謝申し上げます。